



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月11日

上場会社名 愛眼株式会社
 コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 四半期報告書提出予定日 2020年8月11日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 下條 三千夫
 (氏名) 佐々 昌俊
 TEL 06-6772-3383

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	2,489	35.9	587		569		595	
2020年3月期第1四半期	3,883	6.0	12		0	99.8	25	

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 587百万円 (%) 2020年3月期第1四半期 44百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	30.69	
2020年3月期第1四半期	1.32	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	15,429	13,502	87.5
2020年3月期	15,967	14,089	88.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 13,502百万円 2020年3月期 14,089百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,919	17.6	797		759		810		41.77
通期	14,584	5.5	886		815		908		46.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	21,076,154 株	2020年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	1,668,386 株	2020年3月期	1,668,365 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	19,407,784 株	2020年3月期1Q	19,408,253 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、国内外の経済活動が停滞し、大変厳しい状況になりました。特に国内では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けた政府や各地方自治体による外出自粛要請や休業要請に加え、4月7日の緊急事態宣言の発出の影響により、個人消費や企業活動が大きく収縮し国内景気が急速に落ち込みました。5月25日の緊急事態宣言の解除後においても、引き続き予断を許さない状況にあり、雇用・所得環境の悪化や消費者マインドの低下による消費活動への影響の長期化が懸念され、先行きが不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループでは、店舗における除菌・消毒やマスク・フェイスシールド着用の徹底を図り衛生管理に万全を期すとともに、休業店舗スタッフによる在宅研修や本社部門を中心に在宅勤務を推奨するなど適切な感染拡大防止対策を実施し、コロナ禍の下でお客様と従業員の安全・安心を確保することを最優先に事業を進めてまいりました。また、当社は、今年度創業80周年、設立60周年を迎えます。お客様からの長年のご愛顧に応えるべく、引き続きお客様からの支持・信頼の獲得に焦点を当てた諸施策を推進し、新型コロナウイルス感染症の収束後の事業展開を見据えた取り組みも併行して行うとともに、組織面においても、業務の効率化と働き方改革を適切に遂行し組織の活性化を進めております。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が期初から5月にかけて顕著に現れ、来店客数が大幅に落ち込んだため、眼鏡小売事業の既存店売上が前年同四半期を35.2%下回ったこともあり、売上高は2,489百万円(前年同四半期比35.9%減)となりました。また、売上総利益率は、主に価格施策や品種別の売上構成比の変化の影響で0.8ポイント上昇しました。一方、経費面では、経費コントロールの徹底を図り、チラシやCMの自粛による広告宣伝費の抑制、その他の販売費の圧縮、休業店舗のテナント家賃の減免、休業や営業時間の短縮による時間外勤務の減少などにより、販売費及び一般管理費は2,340百万円(前年同四半期比13.8%減)となりましたが、売上高販管費率は大幅な売上高の減少が響き24.1ポイント上昇しました。

この結果、営業損失は587百万円(前年同四半期は営業損失12百万円)、経常損失は569百万円(前年同四半期は経常利益0百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は595百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失25百万円)となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた快適で安心な視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・サービス力の全てが結集した「愛眼ブランド」の強化に取り組んでおります。

販売促進面につきましては、お客様のニーズに的確に対応した商品開発に注力し、素材・機能面において高品質でお客様満足度の高い商品の品揃えの充実を図るとともに、お客様に選ばれる「愛眼ブランド」の競争優位性の確保とマーケティングの強化を通じて、質の高いサービスを提供できる体制の構築に取り組んでまいりました。

売上高につきましては、期初から5月にかけて新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、ロードサイド店舗以外の一部インショップ店舗における臨時休業(実施店舗79店)や、時短営業(実施店舗168店)に加え、外出自粛に伴って一時的に客足が遠のく状況に陥ったことなどが当第1四半期連結累計期間の売上推移に大きく影響しました。6月に入り客足はほぼ例年並みに回復したものの、当第1四半期連結累計期間においては、中心品目のメガネ販売は前年同四半期比で32.6%減少し、また、準主力品目の補聴器、サングラスの売上も各々41.2%、54.9%減少したことで、全体的に前年同四半期比で大幅な減収となりました。

店舗につきましては、神奈川県横須賀市に1店舗を新規出店したことに加え、4店舗で既存店の活性化を目的とした改装を実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は2,384百万円(前年同四半期比35.7%減)、セグメント損失は548百万円(前年同四半期はセグメント利益16百万円)となりました。

[眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた取引先への販売支援に努めてまいりましたが、取引先の売上不振等によって卸売上額が大幅に減少しました。

この結果、売上高は75百万円(前年同四半期比36.1%減)となり、セグメント損失は6百万円(前年同四半期はセグメント損失1百万円)となりました。

[写真館事業]

愛写館3店舗を営む写真館事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のための外出自粛や、緊急事態宣言の発出に伴い全店舗の臨時休業(休業期間の始期4月8日～終期5月31日)や営業時間の短縮を余儀なくされたことにより、撮影日の変更やキャンセルなどが増え、撮影件数が大幅に減少しました。6月には全店がそろって営業を再開しておりますが、このような自粛ムードのなかにあつて、写真館では、お客様に安全・安心な環境のもとで撮影に臨んでいただけるよう引き続き安全対策を万全にした上で、お客様の人生の節目節目の記念日を感動的で素敵な思い出にできる撮影メニューやお召いただく素晴らしい衣装や小物を数多く揃え、営業に取り組んでまいります。

この結果、写真館事業における売上高は13百万円(前年同四半期比37.5%減)、セグメント損失は12百万円(前年同四半期はセグメント損失18百万円)となりました。

[海外眼鏡販売事業]

海外眼鏡販売事業につきましては、中国での新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、北京市、天津市所在の直営店やフランチャイズ店では、1月より住民の外出規制の影響を受け、客数は大幅な減少となりました。5月には新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響は最悪期を脱したものの、客足はまだ完全には戻っていない状況にあります。

この結果、売上高は16百万円(前年同四半期比57.2%減)、セグメント損失は10百万円(前年同四半期はセグメント損失2百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末に比べ、現金及び預金の減少、受取手形及び売掛金、商品及び製品の増加等により537百万円減少し、15,429百万円(前連結会計年度末比3.4%減)となりました。また、負債合計は未払法人税等の減少、賞与引当金及び流動負債のその他に含まれる前受金の増加等により49百万円増加し1,927百万円(前連結会計年度末比2.6%増)となり、純資産合計は13,502百万円(前連結会計年度末比4.2%減)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による当社グループへの影響につきましては、上半期は大きく影響を受けるものの、下半期は改善するといたしました2020年5月11日公表の決算短信の内容と変化はないため、連結業績予想の修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,376	4,532
受取手形及び売掛金	636	780
有価証券	—	100
商品及び製品	2,088	2,198
原材料及び貯蔵品	32	33
その他	262	276
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	8,393	7,918
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,050	1,054
土地	1,878	1,878
その他(純額)	301	338
有形固定資産合計	3,231	3,272
無形固定資産		
リース資産	4	1
その他	79	76
無形固定資産合計	84	77
投資その他の資産		
投資有価証券	672	587
敷金及び保証金	3,187	3,175
その他	398	398
投資その他の資産合計	4,258	4,161
固定資産合計	7,573	7,511
資産合計	15,967	15,429

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	443	435
未払法人税等	155	47
賞与引当金	1	67
その他	760	853
流動負債合計	1,361	1,403
固定負債		
繰延税金負債	13	17
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	328	331
リース債務	6	7
その他	162	161
固定負債合計	516	523
負債合計	1,878	1,927
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	5,124	4,529
自己株式	△1,051	△1,051
株主資本合計	16,514	15,918
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22	31
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	24	23
その他の包括利益累計額合計	△2,424	△2,416
純資産合計	14,089	13,502
負債純資産合計	15,967	15,429

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	3,883	2,489
売上原価	1,180	736
売上総利益	2,703	1,752
販売費及び一般管理費	2,715	2,340
営業損失(△)	△12	△587
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	4	4
受取家賃	19	19
その他	4	5
営業外収益合計	30	30
営業外費用		
固定資産除却損	5	0
貸貸費用	11	11
その他	0	0
営業外費用合計	17	12
経常利益又は経常損失(△)	0	△569
特別利益		
投資有価証券売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
投資有価証券評価損	2	—
特別損失合計	2	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△1	△569
法人税、住民税及び事業税	23	24
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	23	25
四半期純損失(△)	△25	△595
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△25	△595

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純損失(△)	△25	△595
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△19	9
為替換算調整勘定	1	△1
その他の包括利益合計	△18	8
四半期包括利益	△44	△587
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△44	△587
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	3,705	118	21	37	3,883	—	3,883
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	18	—	—	18	△18	—
計	3,705	137	21	37	3,902	△18	3,883
セグメント利益又は損失(△)	16	△1	△18	△2	△6	△5	△12

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△8百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

- II 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	2,384	75	13	16	2,489	—	2,489
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	11	—	—	11	△11	—
計	2,384	87	13	16	2,501	△11	2,489
セグメント損失(△)	△548	△6	△12	△10	△578	△9	△587

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△12百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。